

専修単位、教員個人レベルでの改善努力が必要であるが、FD委員会が中心となって、授業方法の工夫に関する談話会などを学部としても企画する必要があるだろう。現在、人文演習科目については学期ごとに開催される担当者会議で、そうした試みが行われている。また、文学部は学問の性格上、多くの非常勤講師を抱えているが、専任教員と非常勤講師との情報交換会を専修単位で行っているところもあり、文学部全体としてもこのような専修単位の試みを今後さらに推奨する方向である。

登録単位数制限の教育的効果については、今後さらに検討すべきである。

「卒業生の進路状況」については、確かに教育効果の測定指標の一つではあるものの、就職率や大学院進学率の側面からのみ教育効果を語ることは適切ではない。社会的妥当性を持った測定指標について、さらに検討する必要がある。

#### 2.1.4.5 教育の質の向上

##### 【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み

- (必須要素) 学生の学修の活性化と教員の教育指導方法の改善を促進するための措置とその有効性
- (必須要素) シラバスの作成と活用状況
- (必須要素) 学生による授業評価の活用状況
- (必須要素) FD活動に対する組織的取り組み状況の適切性
- (選択要素) FDの継続的实施を図る方途の適切性
- (選択要素) 学生満足度調査の導入状況
- (選択要素) 卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- (選択要素) 高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況
- (選択要素) 教育評価の成果を教育改善に直結させるシステムの確立状況とその運用の適切性

##### <2003年度に設定した目標>

1. シラバスの充実
2. 学生による授業評価の有効利用
3. GPA制度による学業奨励
4. FD活動の整備
5. カリキュラムの多様化・重層化による有機的教育の促進

##### (現状の説明)

とりわけ文学部は授業科目が多岐にわたるが、シラバスに関して、講義目的、各回の授業内容、授業方法、成績評価方法、教科書、参考文献、学生による授業評価の方法などを記す形式で、2001年からすべての科目において作成し、ホームページで学内に公開している。文学部では、履修者に対してウェブシラバスのコピーを閲覧に供している。これはウェブシラバス利用の促進を図るためである。

また文学部では、他学部と同様2005年度にすべての授業科目を対象として「学生による授業評価」を実施する。そこでは自由記述とマークシートによるアンケート結果を受け、現在の授業実態を認識し、各教員がこれに回答を行うことを通じて学生にフィードバックする。これが今後の授業改善に役立つであろうことは十分に期待できる。すでに2005年

度春学期に関してはアンケートを実施した。実施率は99.1%で、科目数が最も多い学部であることを鑑みると、順調なスタートをきれたと言える。

教務委員会のもと、GPA制度の導入による厳格な成績評価を2005年度から導入することを決められたが、文学部でも各セメスターで上位250名を学生番号順に掲示し、顕彰することを決定している。

FD活動に関しては、文学部においても積極的な取り組みを検討している。具体的には、FD講演会へのゼミ単位での参加が挙げられる。さらにホームページのマイページ機能において授業の工夫に関する情報交換を促進する体制を整えつつある。

文学部では、全学的な複数分野専攻制に加えて、学部や部局から提供されたプログラムのもと、学部の枠を越えた領域を学ぶことによって、幅広い知見と深い専門性を備えた学生を輩出するために設けられた。文学部では、転科・転専修制度を認めており、学生の学問的ニーズに柔軟に対応できるようにシステムを整備している。それに関連して2005年度から、学科・専修の枠を超えた「広領域」履修コースをスタートさせた。具体化されているのは「言語科学コース」で、選抜を経た結果、履修者はほぼ予想された数（一学年30名）に達した。これらの学際的なカリキュラム編成がどの程度可能か、また学生のニーズ・満足度との兼ね合いは今後の動向を待たねばならないが、言語科学コース以外のコース提供も視野に入れている。ちなみに、言語科学コースは2006年度から一学年の定員を35名に増やす予定である。

さらに文学部では学部内副専攻制を導入している。これは、自専修の学習以外に他専修や他学科の専門分野を体系的に学習することができるシステムで、学際性が養われることが期待される。

以上のようなカリキュラムの多様化・重層化を通じて有機的教育の促進が行われている。

そして、具体的なカリキュラム編成について各専修の代表者による「カリキュラム委員会」が不断に行われている。授業科目数の多い文学部のカリキュラムを有機的に組み上げるのは容易な作業ではないが、常に最善の策が検討、提示され、学生のニーズに応えようと努力している。これは関西学院大学が全学の目標として掲げるライフデザインプログラムへの実質的な貢献として位置づけられる。

#### （点検・評価の結果）

シラバスは、全科目がホームページで簡単に見ることができるようになっていて、学生の授業履修において役立っている。ただ文学部では提供科目が質量とも多岐にわたるため、専任教員、非常勤教員がシラバス作成の徹底化に多大な時間、労力を費やしていることも事実である。

学生による授業評価については、その結果を受けて授業改善への道を探っていく。

FDに関しては、文学部の取り組みは他学部と比べてこれまで積極的とは言えなかった。しかし、上述の通り、ホームページのマイページ機能における授業の工夫に関する情報交換の促進を行うことで、その改善が見込まれる。

こうした質保証の仕組みとともに、成績評価やライフデザインプログラム、ジョイントディグリー制度などとの有機的な連携を深める必要がある。さらには文学部においては先

に言及した「広領域コース」ならびに「副専攻制」との関係付けも課題となる。

(改善の具体的方策)

シラバスに関しては、学生による授業評価の質問項目「シラバス通りに授業が行われたか」の結果を受けて、文学部の全教員（専任・非常勤）にフィードバックする。

FDについては、上述の通り、文学部としても積極的に取り組んでいきたい。

先に述べたカリキュラムの多様化・重層化による有機的教育が将来的にはライフデザインプログラムと連動することをめざす。「転科・転専修制度」、「広領域履修制度」、「学部内副専攻制度」などが活用されることで、広範囲にわたる学問領域に触れ、広い視野を獲得しながら、将来の進路を的確に捉えるためのカリキュラムの実現を促進している。

具体的な授業内容やその方法については、教員同士のさらなる意見交換が求められる。すでに人文演習担当者会、一部の総合入門科目などにおいて活発な意見交換の場が設けられている。今後、他の専門科目などでもそのような場の設定を目指している。それに関連して、未開設ではあるが授業方法などに関する意見交換のためのBBSの設置が検討されている。